



ユニオンニュース・掲示回覧用

私たちの地域合同〔第28回〕

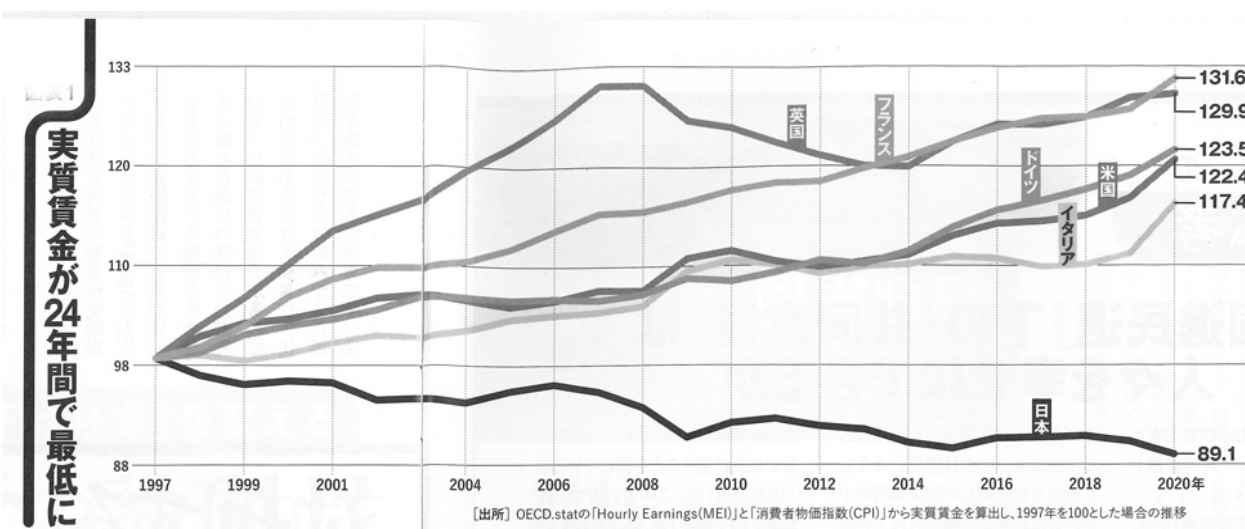
(佐野安下請け労働者支部の巻 その5)

田中滋晃さんは佐野安親会社の組合だったので、下請け労組の具体的な活動に携わっておられません。しかし、下請け労組の結成は、本工の組合活動の活性化とパワーアップにつながったことは確かなようです。ストライキで対抗する、全造船組合に対し、会社とその意志を受けた同盟系の組合との「死闘」が始まります。まさに会社構内・工場入口でさまざまな暴行事件がおこります。その組合への暴行を仕事にしていたのが「ガードマン」と呼ばれる連中です。南大阪では全金労組の闘争職場で初めて導入されたものです。

1973年7月16日、組合は地域の支援組合の協力を得て、このガードマンを会社から放逐します。しかし、その翌日、ガードマンは私服に着替え、鉄パイプ、こん棒などで武装して朝の抗議行動準備中の組合員を襲い、5名の重軽傷者を出し、この事件をきっかけにガードマンは放逐されました。



黙っていても、賃金は上がりません。 労働組合としてしっかり要求しましょう。

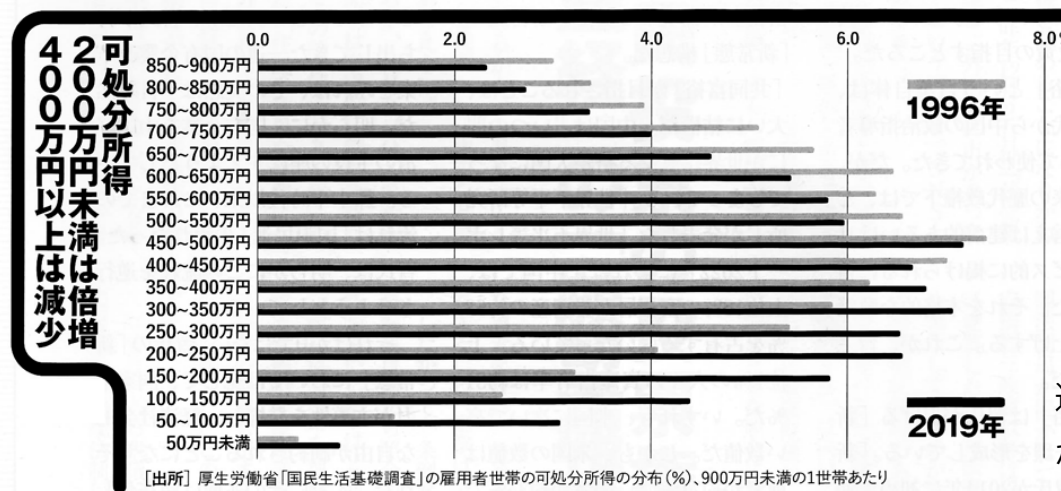
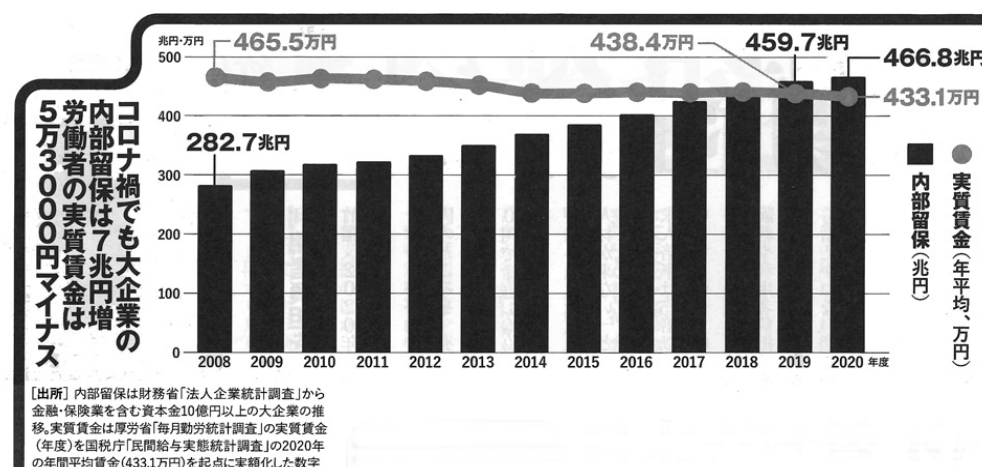


左のグラフを見てびっくりしますよね。なんで、日本だけ下がってるの！って感じです。すでに韓国にも抜かれています。

しかしその下のグラフでは、ずっと企業の内部留保は増え続けているのです。理由は簡単です。労働者の賃金が削られて、企業の利益が増えているということです。労働組合はこの実態を反省しなければならないですね。

その下のグラフが示すのは、中間層の減少です。たくさん所得のある人が減って、低所得者が増えているのがわかります。1996年に可処分所得200万円以下は7%でしたが、2019年には14%と倍増しています。

すぐ下のグラフは、日本の上位50人の金融資産が8年で17兆円近く（一人3400億）増えているということです。想像のつかない額ですね。



週間金曜日
から抜粋

富裕層上位50人の金融資産8年で2.5倍 各税収超える

